

事業活動と環境負荷(マテリアルバランス)

事業が環境に与える負荷の全体像を数値で把握し、「ライフサイクル」と「サプライチェーン」の視点から環境に配慮した活動を推進しています。

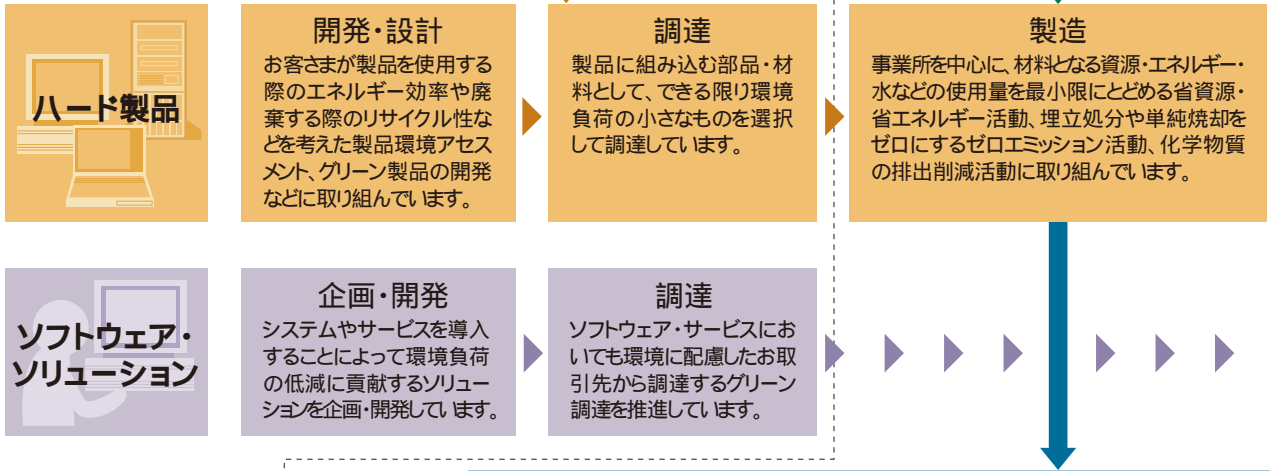
企業統治と内部統制

社会と富士通

地球環境と富士通

算出方法	製造
	化学物質 2004年度の工場、事業所におけるPRTR法の対象とされる化学物質の取扱量
	原材料 2004年度に出荷した主要製品への材料投入量と、それらが資源採掘され、原材料になるまでのCO ₂ 排出量(各製品1台あたりの原材料使用量×2004年度出荷台数) <small>主要製品:パソコン、携帯電話、サーバ、ワークステーション、ハンドヘルド、ストレージシステム、磁気ディスク装置、MOドライブ、プリンタ、スキャナ、金融端末、流通端末、ルータ、アクセスLAN、アクセスネットワーク製品、携帯電話用基地局装置、電子デバイス</small>
	エネルギー 2004年度の工場、事業所における電力、油、ガスの消費量
	水 2004年度に工場、事業所において使用された量

INPUT	化学物質 2,650t	原材料 金属 40,437t プラスチック 18,521t ガラス 2,169t その他 11,044t <small>(プリント基板ユニット、半導体など)</small> CO ₂ 排出量 705,294t-CO ₂	エネルギー 購入電力 2,032,783MWh 重油、灯油 145,642s LPG、LNG 2,525t 天然ガス、都市ガス 21,846千m ³ 地域熱供給(冷暖房用) 44,603GJ 計 2,670万GJ
	水 25,031,002m ³		



OUTPUT	化学物質 52t	大気排出 CO ₂ 128.1万t-CO ₂ SOx 762t NOx 3,585t	排水 22,387,797m ³ BOD 305t COD 426t	廃棄物 廃棄物発生量 50,120t サーマルリサイクル量 7,940t マテリアルリサイクル量 39,867t 廃棄物処分量 2,312t
--------	--------------------	--	---	---

算出方法	製造
	化学物質 2004年度のPRTR法の対象とされる化学物質の工場の排水溝や排気口から排出される濃度を測定し、総排出量(ニッケル化合物、マンガン化合物などの場合)または総排気量(キシレン、トルエンなどの場合)を乗じて算出、あるいは化学物質の収支量(キシレン、トルエンの場合)に基づき算出
	大気排出 CO ₂ : 2004年度の工場、事業所におけるエネルギー消費に伴うCO ₂ 排出量(エネルギー消費量×CO ₂ 換算係数) NOx、SOx: 2004年度の工場、事業所の排気口(ボイラーなど)から排出される排ガス中の物質濃度を測定した排出量に基づき算出
	排水 2004年度に工場、事業所から下水道または河川に排水された量 BOD: 水中の有機物が微生物の働きによって分解される時に消費される酸素の量で、事業排水の有機汚濁排出量を測る COD: 水中の有機物を酸化剤で化学的に分解した際に消費される酸素の量で、事業排水の有機汚濁排出量を測る
	廃棄物 廃棄物発生量: 2004年度に工場・事業所において廃棄物として処分された量 廃棄物処分量: 2004年度に工場・事業所において埋立処分、単純焼却された量(ゼロエミッション対象外廃棄物を含む)

マテリアルバランスの考え方

暮らしやビジネスに溶け込んだ富士通グループのさまざまな製品は、開発・設計から回収・再利用までの幅広い局面で環境負荷を発生させています。

そこで富士通グループでは、自らの事業活動のみならず、お客さま先や社会全体での環境負荷低減に寄与していくために、環境負荷の全体像を数値で把握し、各局面で「ライフサイクル」と「サプライチェーン」の2つの視点から、さまざまな環

境対策を打っています。こうした努力を続けながら、より付加価値の高い製品やサービスを提供することが富士通グループの事業活動の基本です。

以下のINPUT、OUTPUTデータは、主に「ハード製品」のライフサイクル・サプライチェーンに伴う数値を記載しています。

